

### 七月の法座・行事

九日・同朋の会例会  
大阪教区第七組  
長教寺住職  
稲垣 洋信 師  
(午後二時)

十一日・従如上人御祥月御命日  
(午前八時)

十二日・闡如上人御逮夜・常永代経  
(午後二時)

十三日・闡如上人御命日  
(午前八時)

二十五日・宣如上人御祥月御命日  
(午前八時)

二十七日・宗祖聖人御逮夜  
・定例法話  
大阪教区第十七組  
法観寺住職  
廣瀬 俊 師  
(午後一時半)

二十八日・宗祖聖人御命日  
(午前八時)

※諸般の事情により、今月の定例法話は二十七日に開講致します。お間違えのないようにお願い致します。  
尚、今月の正信偈書写の会はお休みさせていただきます。

# 六字城

## 「和讃のおはな」

真宗大谷派 鍵役  
宣心院 大谷 暢文

### 『現世利益和讃(三)』

一切の功徳にすぐれたる  
南無阿弥陀佛をとふれば  
三世の重障みなながら  
かならず転じて軽微なり

(すべての功徳に優れている南無阿弥陀佛というお念仏を称えれば、過去・現在・未来にわたって成した重い罪障をすべて残さず、必ずその罪障を転じて軽くわずかなものとしてくださるのである。)

功徳の宝海  
みちみちて  
煩惱の濁水  
へだてなし  
(法語カレンダーより)

発行 真宗大谷派(東本願寺)天満別院  
大阪市北区東天満一丁目二六

電話 六三五一―三五三五  
代表者 輪 番 長谷山法雄

この御和讃は、表面的には滅罪の利益が述べられているようにうかがわれますが、ここで注意すべきことは、自分の犯した罪がお念仏を称えることによつてすべて帳消しになるといった誤つた見方をしてはいけないということです。

親鸞聖人はこの誤つた解釈を非常に恐れられたようです。実際に、聖人がご教化なされた関東から京都へお帰りになつて数年が経つたころ、「造悪無礙」という誤つた考えが横行するようになり、「造悪無礙」とは、すべての罪を帳消しにしてくれるお念仏があるのだから、いくら罪を犯しても差障りがなく、さらに積極的に罪を犯して救つてもらおうとする誤つた考え方です。

この御和讃で注意しなければならぬことは「一切の功徳にすぐれたる南無阿弥陀佛を称える」者は、一体誰なのかということ。自分の口から出てくるお念仏であるから、自分の意志によつて称えたお念仏だ、と受け取つ

てしまうと、それは自力のお念仏ということになります。しかし私たち浄土真宗のお念仏は、あくまでも他力のお念仏です。たとえ自分の口から出ようと、そこには阿弥陀さまのお力によつて称えさせていただいているという自覚が大切です。自分の口から出てくるお念仏でも、それはあくまで阿弥陀さまのお念仏なのです。だからこそ、一切の功徳にすぐれたる南無阿弥陀佛であるといえるのです。

このように考えていくと、三句目と四句目のお言葉もおのずと違つたとらえ方になります。三句目の「三世の重障みなながら」の「三世」とは、過去・現在・未来のこと。「過去」とは「無始よりこのかた」ということなので、個人の過去にとどまらず、全人類の起源までさかのぼらなければなりません。「現在」は、私たちが存在しているこの今の時です。「未来」は、私たちが仏となるまでのことです。「重障」とは重い罪障のこと、で、「罪」は煩惱によつて作り出される悪の行為、「障

### 編集後記

天満別院では六月二十三日、二十四日に夏の御文法要が勤まりました。私自身初めて多くのご門徒様の前で御文を読ませて頂きました。緊張もし、失敗もありましたが、この経験は今後に生かし、より一層精進して参ります。

さて今月より同朋の会は二時からとなります。また今月のみ定例法話は二十七日です。職員一同、御来院お待ちしております。

堀河

霊園・墓石



## 太田石材店

本社 〒536-0001  
本店 大阪市城東区古市1丁目23番20号  
〒530-0042  
大阪市北区天満橋1丁目2番18  
TEL 06-6930-5075  
0120-30-5075  
FAX 06-6930-5078

り」はさとり障害になることをさし  
ます。これらが阿弥陀さまのお念仏に  
よって必ず軽くなると示されていま  
す。

私たちは仏となるまでは罪悪深重の  
身であります。その罪をなくして、私  
たちを仏としてくださるのが阿弥陀さ  
まであるということが、この御和讃の  
根底にあるのです。

### ◆夏の御文法要勤修

去る六月二十三日、二十四日の二日  
間にわたって夏の御文法要が勤修され  
ました。

天満別院では蓮如上人が書かれた四  
通の『夏の御文』を二日間にかけて  
拝読致します。法要後の法話には京  
都教区山城第五組正連寺住職 平原  
晃宗 師をお招きし、二日間ともお話  
し頂きました。外は大変蒸し暑い中、  
皆様熱心に聴聞されておられました。

### ◆暁天講座のご案内

左記の日程で暁天講座を開講致し  
ます。

日時 八月四日(金)、五日(土)  
午前六時三十分より

講師 大阪教区第十五組  
大長寺住職 沼田 和隆 師

会場は両日ともに別院一階講堂にな  
ります。聴講は無料です。尚、講座終  
了後には軽食を用意しております。

### ◆門徒会総会報告

去る六月二十四日午後四時より門徒  
会総会が開催され、左記の報告が行わ  
れました。

- 第一号 天満別院門徒会  
平成二十八年度事業報告
- 第二号 天満別院門徒会  
平成二十八年度会計報告
- 第三号 天満別院門徒会  
会計監査報告

### ◆報恩講習礼のご案内

左記の日程で天満別院教化委員会  
法要部会主催による報恩講習礼を開催  
致します。内容は出退作法、巡讃(讃頭)  
等について合計三回の習礼を行います。  
是非ご参加くださいますようご案  
内致します。

日時 八月二十一日(月)  
内陣 出仕・退出の習礼及び心得  
午後六時より午後八時まで

九月 五日(火)  
巡讃(讃頭)の習礼及び心得  
午後四時より午後六時まで

九月二十一日(月)、九月二十六日  
(火)の習礼は裳付・五条をご持参く  
ださい。

### ◆通常院議会報告

去る六月二十九日午後四時より通常院議  
会が開催され、左記の議案の審議が行われま  
した。

- 第一号 常議員の選定について
- 第二号 二〇一六年度経常部歳入歳出  
補正予算(案)について
- 第三号 二〇一六年度事業部歳入歳出  
補正予算(案)について
- 第四号 二〇一六年度経常部歳入歳出  
決算書について
- 第五号 二〇一六年度事業部歳入歳出  
決算書について
- 第六号 二〇一六年度本坊運営資金  
収支計算書について
- 第七号 二〇一六年度墓地運営資金  
収支計算書について
- 第八号 二〇一六年度退職給与積立金  
収支計算書について
- 第九号 二〇一六年度整備事業積立金  
収支計算書について
- 第十号 二〇一六年度有価証券勘定書  
収支計算書について
- 第十一号 二〇一六年度期末現金・  
預金・有価証券勘定書について

以上十一案件について審議が行われ、  
全会一致で承認されました。

### 輪番雑感

女優として好きだった野際  
陽子さんが六月十三日肺腺が  
んを縁として亡くなられた。  
八十一歳だった。今放映中の  
倉本聰さん脚本の連続ドラマ  
「やすらぎの郷」(テレビ朝日  
系)ではベテラン俳優たちと  
共演している。三年前肺腺が  
んが見つかり、闘病しながら仕事に  
生命を打ち込んでいた。

「生命を打ち込んだ自分の仕事を  
もっている人には、その仕事のどんな  
種類であるにかかわらず、何人も尊敬  
せずにはおられない。

私たちは、ゆるされた短いのちを  
惜しまねばならぬ。しかし多くの人た  
ちは、単に限られたいのちの延長のみ  
をねがい、限りなきいのちを育むこと  
を忘れがちである。

千古の教えを垂れたいにしえの聖者  
達、芸道の上に不滅の光を放った古人  
の努力を見るにつけても、短いのち  
を育て上げることの尊さが感じられ  
る。

自分のいのちを打ち込むことの出来  
る仕事をもってしているものは幸福であ  
る。そこに如何に苦難が押し寄せようと  
も、たえざる感謝と新しい力のもとに

生きて行くことが出来る。

いのちは仕事とともに不滅である。」  
(九条武子『無憂華』)を思い出す。

「私にしたいのちを惜しむ、これは  
私の人生にとって大事な生き方である  
と思う。いのちを惜しむとは、いのち  
を打ち込んだ仕事をするためである。  
人間は誰でも死にたくない長生きをし  
たい。健康食、健康のための運動、体  
のいろいろな治療など身体の健康には  
気をつけているとやっっているが、

心の健康(安定)を忘れているのでは  
ないでしょうか。私たちは長生きを願  
うが、その目的はなになのか。倉本聰  
さんは「やすらぎの郷」収録中の野際  
さんの様子について「最後まで出演し  
たいとこだわっていた。抗がん剤治療  
から末期治療に切り替えていたが、痛  
みや苦しみに耐えながらの演技で収録  
を終えた。」「僕は『そこまでするん  
じゃない』という気持ちと、『どのく  
らい仕事させて納得させてあげられる  
か』という気持ちの板挟み。」と語っ  
ていた。仕事に向き合う姿勢と燃やし  
つづけた女優魂、多くの共演者から尊  
敬された女優であった。野際さんの  
五十年の女優人生から、私は学ぶとこ  
ろがたくさんあるように感じている。